



「定期健康診断の代替となる人間ドック受診の機会に、
乳がん検診の受診をおすすめします。」

内田賢 明治安田新宿健診センター・所長（日本外科学会指導医・専門医 日本乳癌学会専門医）
2,000例を超える手術経験を持つ乳腺外科の権威、現在も東京慈恵会医科大学で診療。

最新鋭3Dマンモグラフィ検査（トモシンセシス）を導入 3次元の圧倒的な高画質で乳がん検査が可能に！

乳がんは
増えているの？

乳がんは、女性のがんの **1位**

日本人女性の**2**人に1人はがんにかかり、
がんにかかった人の**6**人に1人は亡くなるといわれていま
（出典：国立がん研究センターがん対策情報センター）

乳がんは**早期発見**が大事
早期発見で治療が可能です。

マンモグラフィや超音波（エコー）検査
などの乳がん検診を受けることは、乳がんの
早期発見、早期治療に有効とされています。

➡ 詳しくは裏面をご覧ください

乳がんは
治療できるの？

明治安田新宿健診センターでは、
日本人に多い高濃度乳腺でも精細な検査が可能な
最新鋭マンモグラフィ
（トモシンセシス）を導入しました。

3Dマンモグラフィ料金
（3Dマンモ検査には2Dマンモを含みます）

人間ドック受診時の**オプション**の場合

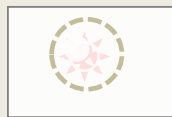
10,800円（税込）

乳がん検診**単独**受診の場合

11,280円（税込）



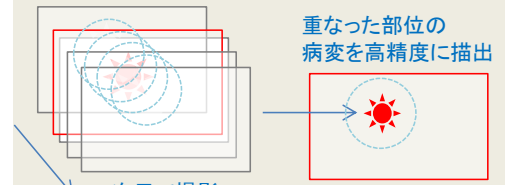
従来のマンモグラフィ
（2次元で撮影）



重なった部位が
見えにくい

米国GEヘルスケア・ジャパン社SenoClaire

GE社製最新鋭マンモグラフィ（トモシンセシス）
（3次元断層撮影＋最新の解析技術）



重なった部位の
病変を高精度に描出

3次元で撮影

明治安田新宿健診センターで
検査できます

ご予約・お問い合わせは
ご予約の際は保険証をご用意してお電話ください

03-3349-2731

平日（休診日を除く）9:00～17:00

予約専用ホームページ
<http://www.my-kenshin.jp/reserve/>

※最新鋭3Dマンモグラフィ単独での検査はできません。オプション検査には
人数制限がございます。ご受診をご希望の場合はお早目のご予約をお願い
いたします。詳しくはお電話でおたずねください。



あなたは“高濃度乳腺”？

有名人の**乳がん**が昨年に引き続き、今年もメディアで話題になっています。
ここでは乳がん検診を賢く受けるために、
ぜひ知っておきたい最新情報として“高濃度乳腺”をご紹介します。

乳がんは、女性のがんの半分を占めるポピュラーな悪性腫瘍です。40歳を超えると乳がんは増え始めますが、70歳代でも乳がんは珍しくありません。欧米では乳がん検診の受診率が70%なのにくらべて、日本では平均30%~40%と受診率が低いのが実状です。乳がんは**早期発見**が大事。**早期発見で治療が可能です。**

乳がん検診は3Dマンモグラフィの時代に

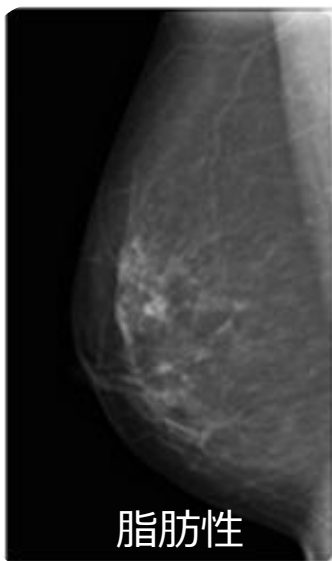
乳がん検診では、最新の検査機器が注目されています。

それは「**トモシンセシス**」と呼ばれ、高画質の3D画像で撮影します。

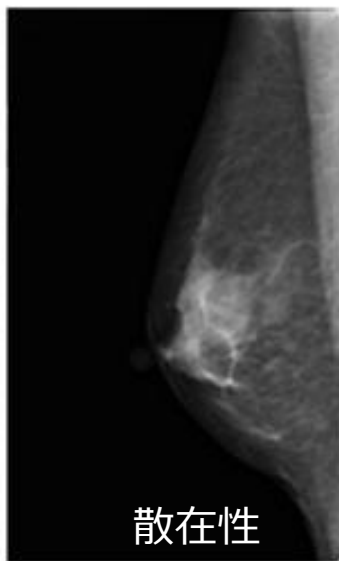
これまでの乳がん検診では、“マンモグラフィ”がスタンダードな検査とされてきました。しかし最近マンモグラフィには、弱点があることが指摘されています。それは、高濃度乳腺の場合に乳腺内に小さな病変があっても見分けが付きにくいことです。**とくに40歳から50歳代の女性は50~70%が高濃度乳腺です。**

当センターの例

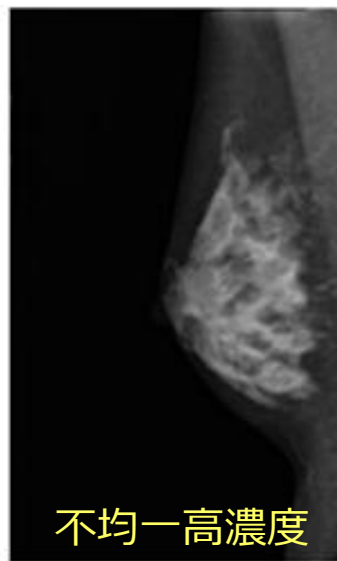
当健診センターの調査では、高濃度乳腺の頻度は40歳代では72%、60歳代では32%でした。これは閉経すると乳房は脂肪に置き換わって乳腺濃度は減少していくため、高濃度乳腺は若い女性に多く、高齢女性では少ないと考えられます。



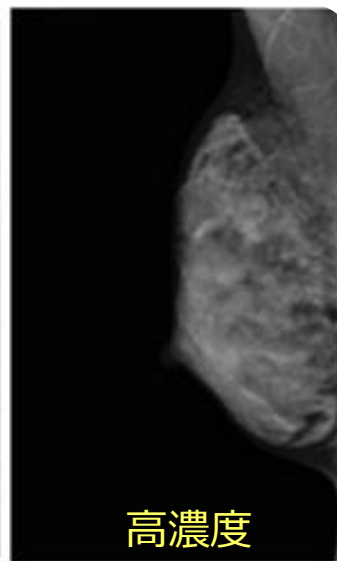
脂肪性



散在性



不均一高濃度



高濃度

40歳代から50歳代は是非、3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）検査を新宿健診センターなら圧倒的な高画質を誇る3Dマンモが受けられます

「**トモシンセシス**（デジタル・ブレスト・トモシンセシス）」は、一回の撮影で複数の断層撮影ができる新しい乳房エックス線検査法です。トモシンセシスのトモ(Tomo)は、断層という意味で、乳房をCT撮影の様に断面で何面もの撮影されたデータを3次元的に再校正し、3Dのような画像になります。したがって、**従来の2D画像のマンモグラフィと比べて、高濃度乳腺内の病変を見つけられる感度が高くなりました。**また乳腺の重なりによる影響がなく、要精密検査の必要も減ってきます。トモシンセシスも以前は、撮影時間が長く、放射線被ばくが多いという問題点もありましたが、現在はマンモグラフィと同等の被ばくですみます。40歳、50歳の乳がん検診では、【マンモグラフィ+超音波】検査が推奨されていますが、【トモシンセシス】は今後更なる威力を発揮できると期待されています。

明治安田新宿健診センター・所長 医師 内田賢